第１５回　国立市文化芸術推進会議　議事要旨

１．日　　時　　令和４年２月１７日（火）１９：００～２０：５０

２．場　　所　　国立市役所３階第１・２会議室

３．出 席 者　（委　　員）池田委員、足羽委員、髙橋委員、宇治委員、福間委員、渡辺委員、
久保委員、湯本委員、今村委員、沢辺委員（オンライン）
（欠席委員）なし
（事 務 局）井田生涯学習課長
土方社会教育・文化財担当主査、長谷川社会教育・文化財担当主事

４．傍 聴 者　　０名

５．議　　事　（１）　開　会
（２）　文化芸術推進基本計画の進捗状況について
（３）　質疑応答・意見交換
（４）　事務局からの連絡事項
（５）　閉　会

６．配布資料　　資料１５－１　文化芸術推進基本計画施策・取組進捗一覧表
資料１５－２　文化芸術推進基本計画の令和3年度の進捗状況について【報告】

７．主な内容

（１）開会

■事務局の人事異動について報告を行った。

■事務局から、本日の配布資料の確認及び本日の進め方について説明を行った。

（２）文化芸術推進基本計画の進捗状況について

■事務局から、資料15-1、15-2に基づき令和３年度の計画の進捗状況等について説明を行った。

（３）質疑応答・意見交換

■事務局の説明を受け、委員より以下のとおり質疑・意見交換等があった。

【湯本委員】

◇新たな推進体制がここでできるというのは、大変よかったと思う。アクト／アートセンタークニタチ事業は、コーディネートの体制づくり、拠点形成、リサーチ発信事業となっているが、これは文化芸術の全てのものを含んでこの事業をやるというふうに考えてよいか。

【事務局】

◇範囲としては文化芸術活動全体を想定している。音楽、美術など様々な活動を、全てひもづけられるような活動にしたいと考えている。

【湯本委員】

◇市内事業者である一般社団法人ＡＣＫＴについて、もう少し詳しく内容を説明してほしい。

【事務局】

◇アートセンタークニタチということで、芸術のセンター拠点となるような組織体となることを見込んでいる。核となるメンバーはデザイナーが2名で、まずはアート関係のイベントを実施し、様々な文化芸術の活動をしている方に広げ、そういった方にメンバーに入ってもらったり、タッグを組んで、新たなイベントなどにつなげることを期待している。

【湯本委員】

◇アクト／アートセンタークニタチの中で、実際に事業を進める主体は、一般社団法人ＡＣＫＴになるのか。

【事務局】

◇まずアーツカウンシル東京と財団から、ＡＣＫＴのほうに補助金という形で費用を出し、実際にはＡＣＫＴが運営、事業展開をする。財団に関しては、市の方から補助金を出し、その中に、ＡＣＫＴの特定の事業のための資金を含めるというような流れで、最終的にはＡＣＫＴが軸となって進めていきたいと考えている。市の計画、財団、アーツカウンシル東京の意向も勘案し、進めていく。

【池田議長】

◇一般社団法人で、収益事業、または公益事業を組んでいると思うが、理事を含め、理事長の人選は済んでいるのか。そして、この一般社団法人の管轄は文科省になるのか。

【事務局】

◇定款は既にできており、昨年の３月２４日付で法人設立されている。管轄はわからないが登記はされている。

【池田議長】

◇理事、または理事長は誰か。個人名を伺いたい

【事務局】

◇２名おり、丸山さん、もう一人が加藤さんである。

【池田議長】

◇両名の具体的な資料を、後日委員に配布してほしい。

【事務局】

◇承知した。

【久保委員】

◇１つ目がおんかつ事業に関わることで、担当した音楽担当の音楽専科の教員から伺った話だが、まず学校の負担は本当になく、全てスムーズにやっていただき、本当に助かった。また、子どもも本当に音楽を楽しめて、有意義な時間を過ごせたとのことだった。

◇課題として、この事業は、各学校を回って、つながっているように見えるが、学校側からすると、指導計画がある中で、急におんかつが出てきて、それ自体はすごく充実しているが、そこで終わって、また関係ない指導計画に戻っていくという形である。年間指導計画をつくって学校は動いていくので、ぜひそことつながって、点ではなくて、線、面になっていくような、そういう持っていき方、進め方ができれば、さらにいい時間になるのではないか。また、児童も実際にやってみたいという主体者意識が強く、もっとより身近な授業に関われるようなら、例えばリコーダーとか、鍵盤なども含めてもらえると、なおありがたいという意見を現場から伺っている。

◇２点目は、学校としては駅舎があることで、駅舎の木材を使い、レリーフを彫る活動や、今年度

国立二小では、６年生がベンチを作り、そこに桜の絵を描き、卒業制作とするなどの造形活動があった。こういった文化財があるからこそ広がっていくもの作りとか、歴史につなげていける、表現につなげていけるという、すばらしさを感じた。駅舎はすてきなスペースではあるが、展示を行うのは難しい。展示のための設備が整えば、学校にとっても、地域の芸術家にとっても、作品展示の場としてより活用でき、文化拠点としての役割がより深まるのではないか。

【渡辺委員】

◇市民文化祭に深く関わっており、このコロナになる前、２０１９年の第６４回のときには、大体３０団体ぐらいが参加し、その次の６５回の文化祭は、コロナで３０もあった団体が、８団体まで減った。それでも、１団体でもやるという団体があれば、決行しようという実行委員会の判断で、８団体で少ないメンバーではあったが文化祭が行われた。そして今回、令和３年、昨年の１１月の文化祭に、今度はその倍の１６団体が参加した。感染者も少なくなって、落ち着いた時期ということもあって、私の入っている日本舞踊の団体も、芸術小ホールで発表することができた。お客さんも大変多く、思い切ってやってよかったと思っている。今年度、令和４年度の会合が４月に発足するが、やはりこのコロナで右往左往しているというのが事実であって、参加したいが、できないというような団体もある。

◇駅舎のデジタルサイネージについて、市民文化祭に対してはただで出させていただいた。芸能フェスティバルとか、何団体かそのサイネージを利用していて、駅舎にこのような広告機能が入ったというのはすごくよかった。ただ、久保委員の意見のように、絵を展示したりできるスペースが確かにない。広さも問題になっていると思う。

◇くにたちオペラでは、私の知り合いも２人ほど参加して、今年の５月に向けて、今、練習に頑張っているということを報告する。

【今村委員】

◇この報告を受け、この困難な状況の中で、ここまでいろいろな活動が再開して、進捗しているということに、皆様の御努力とか、意欲とか、実行力とか、そういうものについて、改めてすばらしいと感じている。

◇くにたちオペラがとにかく順調に、計画どおりに進んでいるということがすばらしい。音楽は、今はまたオミクロンで、学校は歌も歌っちゃ駄目だとか、体が接触するスポーツも駄目とか、そういう状況になっているわけなので、この中で何とか５月にくにたちオペラがちゃんと開催できるといいなと思う。

◇オペラをやる都市というのは、すごく成熟した都市であって、松本市とか、川口市とか、文化に非常に興味がある、非常に成熟した都市である。だから、そういうことは対外的にアピールしていけると思う。私自身も、できたらぜひ見に行きたいと思っている。

◇おんかつについて、これもやはりこの時期、この御時世で、そういう活動がちゃんとできていてというのが、まずすばらしいと思う。やはり、アーティストバンクみたいなもので、もうちょっと学校と連携できるように、継続して取り組んでいけるようなアーティストとか、そういう方がちゃんと事情も分かって、先生方と連携して、子供の教育というものと連携しながら、深く関わっていけるようになるといいなというふうに思っている。そういう面で、利益誘導ではないが、国立音大では、国立市と協定も結んでいるし、やはり音楽教育課とか、専門家もいるので、そういうものも活用して、いろいろな活動が一緒にできたらいいなというふうに思っている。

◇基本理念４のところのジャズコンサート、予約でいっぱいになったということで、もちろん、くにたち文化・スポーツ振興財団で、いろいろ考えて支度してくださったと思うが、ジャズを能動的に聞きに来ようという方は、やはり大人の方であって、子どもがジャズに触れるということは、かつてコロナ前であれば、天下市とか、そういう野外で行われるイベントとか、クリスマスにもありましたが、国立駅の前でイベントをやったときに、ジャズのグループが出たりして、そういうところから次第に入っていくというのがあり、やはりジャズが好きで、出かけていって聞きたいというのは大人の方が多いと思う。そういうこともあり、やはり子どもには子どもに合ったというか、成長過程に合った、多様性もすごく大事と思うが、発達段階に適切なものというのがあって、やはりそういうことをうまくキャッチして、適切なときに適切なものを提供できるような体制を作っていくといいのかなと思った。もちろん、このイベントはイベントで成功だっただろうと思うが、子どもたちに文化芸術体験機会を提供したいという目的であれば、もうちょっと違う形のほうがよかったのではないか。だが、それはいろいろ試行錯誤をしていくうちに定まっていくものだと思い、今後、活動を継続していく中で期待していきたいと思う。

【池田議長】

◇ありがとうございました。渡辺委員と今村委員の話の中にあったオペラについて、今回配付されていないが、既にこういうチラシが出ていて、髙橋委員から、現在の予算とか進行具合を皆さんに紹介できる範囲で説明いただきたい。

【髙橋委員】

◇くにたちオペラに関しては、現在、週末にはほぼ毎日練習をしているところで、スティルトという西洋竹馬も出してきて、今も練習している状況である。

◇４月３０日、５月２日、５月３日、計３公演をやる予定である。私も、この練習、実際に稽古をしているところを見に行ったが、かなり本格的で、もちろんプロの方も入ってはいるが、素人さんが集まってやっているものに比べると、すごく本格的なオペラになるかと思う。４月３０日から５月３日の間には、多和田葉子さんも来る予定である。ただ、コロナの関係でこちらへ戻ってこられるかどうかが分からず、オンライン参加になる可能性もある。こちらとしては、かなり今力を入れている事業で、正直言うと、経費の面が若干心配ではあるが、国とか都の補助金も申請をし、それらが取れるように努力しているというところである。今後、また委員の皆様に御紹介できる機会があれば、こちらのほうから連絡をとり、紹介させていただく。

【池田議長】

◇ありがとうございました。

【今村委員】

◇クラウドファンティングはやらなかったのか。

【髙橋委員】

◇今回はやっていない。やろうかという話もあったが、できなかった。ただ、やれば集まる可能性は高かったとは思う。

【福間委員】

◇今村委員と同じように、今いろんなことを進められているということに感心したと同時に、それらについて、自分はあまり知らなかった。この市内で行われる文化芸術情報の積極的な収集発信方法については、私たちも話してきた気がするが、この国立駅舎のツイッターは、今自分もフォ

ロワーに入っているが、自分を入れてまだ９７０人である。１，５００回の発信よりも、９７０人しかフォローされてないということについて、少し真剣に考えたほうがよいのではないか。これが市内で行われている文化や芸術情報の、中心になるとしたら、９７０人ということは、例えば自分はツイッターを毎日やっていて、毎日見ているが、一度も見たことがなかった。ということは、私のツイッターをフォローしている人で、ここをフォローしている人はいないと思われる。いないから見えない。タイムラインに上がってこない。このぐらいだと、ほとんどの人は知らないという段階だと思う。ここはフォローもリプライもしないというが、ツイッターは、リプライとかをしなければ、フォロワーは増えていかないという面があると思う。一方、民間的なくにニャンとか、これはフォローしているという、この一方通行性がちょっと弱いと考える。

◇このツイッター以外の周知活動というのは、どういうものを行われているのか。今村委員のお話にあったコンサートについて、周知期間が短かったから、子ども連れが来なかったと書いてあるが、今後も同様のイベント開催を予定しているのであれば、この周知期間のことについて、今後は周知期間を多くして、あるいは別な周知方法も考えて、という部分が抜けていると思う。

【事務局】

◇旧国立駅舎のフォロワーが少ないというところと、発信はするけれども、フォロー、リプライはしないという点が、ちょっとまだ弱いのではないかというご意見で、こちらは、やはり国立市と同じ市の発信ツールとなっており、なかなか一つ一つ返せていない現状がある。そこをスルーしないというところ、さらなるフォロワーを増やす努力をしていくべきところは、主管課の国立駅周辺整備課のほうにも伝えたい。

◇ジャズコンサートで、周知期間が短かったという点と、今後の周知方法について、このイベントを掲載した、財団が発行している「オアシス」という広報誌が、市報１２月５日号と同時に発刊された。それらが市民全体に届いた後に募集したいと考え、１２月７日ごろに募集を開始した。１７日という日程を先に決めてしまったため、実際は１０日間ぐらいで当日を迎えてしまい、周知期間が短かくなった。市報は、５日号、２０日号の月２回、財団発行の「オアシス」は２か月に１回、５日に発行するという中で、それをベースに、逆に日程のほうを余裕がある形で設定するというのが１つ、方法であると考える。

◇発信の方法としては、財団のオアシス、それから市のホームページ、市の教育委員会が発行している「くにたちの教育」、こちらの３媒体を中心として周知したが、御指摘のとおり、ツイッター等での発信は、市のほうはしていないので、そういった周知不足というところも、今後補えるようにしていきたい。

【福間委員】

◇旧国立駅舎から出す、何か紙媒体のものもあったほうがいいのかもしれない。あそこで通る人がみんな持っていけば効果が期待できる。オアシスとか、そういう前からあるものの一部の中に入っていても、文化芸術振興として力を入れているものが一度に見ることができないというのは、弱いかもしれない。９７０人のフォロワーのツイッターよりも、旧国立駅舎に行けば、文化振興になるようなイベントが全部見えるような、そういうものも。やはり、チラシというのも、意外と弱くて、それに興味のある人は見るんだけれども、あるいはそれを手渡されて、たまたま知り合いがやっているとかいうのは見るけれども、それを１つ合わせて、今回のシーズンで実施されるものが、重ねて見えるようなものが、国立駅舎で配られていたら違うかなという気がする。

【事務局】
◇ただいま御意見があった文化芸術の発信方法について、検討させていただきたい。
【池田議長】
◇それでは、引き続き、宇治委員にお願いする。
【宇治委員】
◇２点、質問をしたい。資料の５ページの「くにたちアートビエンナーレ」で、新たなアートビエンナーレの開催の検討ということで、ここで組織が立ち上がったばかりで、決まっていないのかもしれないが、開催のスケジュール的なもの、いつぐらいに実施予定を検討されているのかということを伺いたい。もう一点が、国立駅周辺のＪＲ中央線高架下でアートイベントを予定しているということを書いているが、こちらは具体的にどういったイベントを考えているのか、教えていただきたい。
【事務局】
◇５ページの下の取組のスケジュール感は、今年度、何かパイロット的に、１つはやろうというような話で進めてはいたが、この段階ではまだできておらず、ただ、年度はまだ残っているので、３月までには１つ、こちらで書いてあるようなイベントを予定している。さらにその先、令和４年度、５年度以降についても、場所を変えながら、市内全域でアートのイベントができるような仕組みづくりをしていきたいと考えている。
◇今年度のイベントの詳細は、まだ確定ではないが、まずは国立駅周辺でやろうという話の中で、いろいろ場所を当たっていたところ、なかなか借りられず、今考えているのが、国立駅から西側に少し行ったところの高架下に使われていない空間があるので、そういった空き空間を使ってのイベントである。もともとコロナが収まってくるような中で、高架下に人を集めて市内を巡るというようなイベントを考えてはいたが、こういった状況の中で、人が集まるというのがよろしくないということもあり、オンラインも駆使しながら、どういった形でできるか、今進めているところ。
【髙橋委員】
◇まず初めに、久保委員、今村委員から、おんかつのことに触れていただき、感謝する。今年はサクソフォンのカルテットをやったが、結構評判がよく、毎年違うものをやってはいるが、先ほどの久保委員の御指摘のように、どうしても点になってしまっているというところは、これから財団としてもそれをどうやって線、面につなげていくのか、今後検討したいと考えている。
◇４ページに記載の「円形公園はじまり物語」という郷土文化館主催の事業を１０月に行ったが、この事業の内容としては、パネルの展示を１週間程度、それから、関連事業としてトークイベントと、ガイドツアーという円形公園の中を紹介するというツアーを実施した。いろいろな方の御意見を聞くと、最近、若い方であそこの真ん中が円形公園だということを全く認識できていない方が非常に多いというのが分かった。つまり、単なるロータリーの真ん中の空き地というか、フリースペースだと思っていらっしゃる方も多く、今回募集して、２０名ほどの方がガイドツアーに参加したが、普段入ることのできないあのスペースへ入ることができて、非常によかったというような御意見もあり、駅舎も含めて、あの辺りも今後、市と一緒に紹介できていければいいなと思っている。
◇駅舎も、情報発信の場として、財団も非常に重要だと思っている。今後、駅舎を使った事業も展

開していきたいと考えており、もしそういったときに何か機会があれば、皆さんの御意見をいただければと思っている。

【沢辺委員】

◇私からも３点ほど質問とコメントをさせていただきたい。１つ目は、先ほど、今村先生から子ども向けのコンサートへの言及、また事業内容としてはそうやっていらっしゃるということを拝見して、つくばでの話を、参考になればと思い、お伝えする。つくばサローネというものをやっていて、毎月ベビーカーとか、そういったものを押しながら参加できるような、子ども連れのお母さんとか、お父さんを対象にしたクラシックコンサートをやっている。そのクラシックコンサートのアーティストも全部地域に関連がある方々に、半分ボランティアみたいな形で参加していただいている。何回か拝見してすごくいいなと思ったのは、子どものためというのもあるが、子育てをしている親は孤立しがちなところがあると思うが、そういった人たちのコミュニティーになっていったり、そこから様々な情報交換ができたりという面である。国立も最近、子どもの拠点を新しく矢川のほうにつくるというのを伺ったり、子育て世代の誘致ということも、市として取り組んでいるということも耳にした。子どものためという視点と同時に、子供を含む親のコミュニティーづくりという意味で、音楽が果たせる役割というのは非常に大きいと実感している。そういう観点で、子どもが参加しやすいコンサートというものは、国立という場所ですごく育みがいがある企画なのではないかと思う。やはり重要なのは、定期的にやるということと、時間帯で、夜だと、結局子連れというのは行けないと思うので、午前中とか、午後とか、つくばの場合は１日３回ぐらいやっている。そういった本当に子連れが来やすい仕組みを念入りに組むと、非常にコミュニティーにとって役割が大きいところもあるんじゃないかと思った。

◇もう一つは、何名かの委員方から質問があったが、今後の文化推進体制の話の中で、一般社団法人ＡＣＫＴについて、これはデザイナーの２名の方が理事で入っているということだが、これまで私たちが計画推進委員で重要な論点として議論してきたような、今後の体制について、それをこの一般社団法人ＡＣＫＴという団体がある程度担えるような役割に育てていきたいというような意図でお話しされていると聞き取った。そうなってくると、この一般社団法人ＡＣＫＴは非常に公共性が高い団体なのかなと聞き取れたが、この社団法人の立ち上り自体から、財団なり、市役所なりが関わっていて、そういった経緯があって、財団から活動資金というものも含めてサポートしていくということになっているのか。そこら辺の一般社団法人の体制ということについて、追加で質問させていただきたい。

◇私自身が携わらせていただいた、こちらの報告書にも、イタリア・ジャパン・キッズシアターを掲載していただき、感謝する。これは、５市の自治体が共同してやっている事業で、プロポーザルで公募し、私が所属している団体のほうでプロポーザルを受託し、実施した事業である。実際にやってみて、１１月でコロナが一時期収まりかけていたので、オンラインでやるか、リアルでやるか、平行線でずっと進んできていた中で、リアルで実施できた。抽せんで参加してもらった小・中学生からは、実際に参加してみて、リアルな体験というものを非常に欲していたというような言葉が多く見受けられた。オンラインでいろいろ充実したプログラムをやっていくということも大事だが、やはり芸術文化に触れる生の体験をどう確保するかということは、非常に重要なことだということを、私自身も改めて実感した。残念ながら、イタリアのラ・バラッカというのは、本当は渡航して日本で公演していただく予定だったが、やはり今の状況で渡航はできなかっ

たので、オンラインを通じて芸小ホールと、財団には本当にいろいろサポーティブにやっていただいて感謝している。オンラインでイタリアのボローニャというまちと国立のまちをつないで、実際にこの俳優の方たちと子供たちとインタビューしているという、そういったこともやって、国立の子供たちからも様々なコメントや意見が寄せられてきていた。そういった形で実現できたのはとてもよかったが、今後、海外との都市交流というところで、オンラインをうまく使いながら、リアルに体験してもらえる場を確保するというのは非常に大事だと思った。

【事務局】

◇２点目に御質問いただいた一般社団法人のことで、こちらの設立は、先ほど申したとおり令和３年３月で、その設立する前から準備という形で財団、市、それから、アーツカウンシル東京、３者で打合せをしながら設立までつなげていったという状況である。もともとこちらのアートビエンナーレ事業というのをやってきた中での、財団での方向を変えていくという話と、アーツカウンシル東京が都内全域で展開しているアートポイント計画、この２つのものが融合する形で、今回、この４者の協定に結びついている。このアーツカウンシル東京のアートポイント計画の中では、相手方としてＮＰＯ、もしくはそれに準ずる団体が加わった形の取組に対して補助を出すようなスキームで、そういった枠組みを使いながら、また市内のそういう推進体制を構築するようなものと合わせ、設立をしたという経過がある。

【沢辺委員】

◇人選は、いわゆる理事のメンバーの方々も含めて、最初からその３団体の方が選ばれて、人選されているということなのか。

【事務局】

◇先ほどの理事２名のうち、丸山という者は、もともとプレイミーなどの財団でやっている事業のコーディネーターをされている方で、その方をまず１名引き込み、加藤という者は、また違う、市内で国立本店というスペースを展開しながら、様々なデザイン活動をされている方、こちらの方も巻き込み、今２名体制でやっているような状況である。

【池田議長】

◇それでは、足羽委員にお願いする。

【足羽委員】

◇大体皆さんのコメントに賛同するものであるが、やはりまだ、もう一つこのＡＣＫＴが分からないというのが正直なところである。私たちが、２年、３年話していたときに、国立のアーツカウンシルをつくるとか、いろいろ議論があって、最後までアーツカウンシルはどんな体制がいいのか、まとまらず、新しい体制をつくるということだけで入れたので、もしこれがそういう形に近いものとしての御提案であれば、もう少し分かりやすく、私たちのほうに説明があったほうがよかった。同じような説明がビエンナーレのところにも出ていたり、ＡＣＫＴのことが書いてあったり。しかも一般社団法人ＡＣＫＴだけではなくて、アクト／アートセンタークニタチ事業と銘打ち、その事業を４者でやっていくということなので、この一般社団法人ＡＣＫＴ、英語で書いてＡＣＫＴというのと、片仮名でアクト／アートセンタークニタチ事業との関係がまだ分からない。その上で、このＡＣＫＴを育てていくという言い方も、市としてどういうディスタンスを、そこに距離を持ってやっているのか、助成を得るためだけの傀儡ではないはずだと思うので。今の説明を聞くと、助成のために必要だったというのは分かるが、ちょっとここがわかりにくい。

いいことだと思うし、今、ここで加藤さんを調べたら、本当にいろいろな事情を国立でやっているということが分かる。属人的なことではなくて、システムとしてどういうことなのか。

◇もう一つは、考え方の違いかもしれないが、今日の報告は、国立市が何をしましたかとか、国立市の文化担当が文化推進にこういうことをやりたいですよ、やりましたよという報告だと思う。私たちは、そのことだけを考えていたのでなく、国立市全体の文化で、民間の人とか、一つ一つにのアートギャラリーとか、いろんな文化活動をしている人たちをどうつなげていくか。それは、国立市のアートを振興するために、非常に大事なことだと最初から言っていたと思うが、それが何となくどこかで消えていて、今、福間委員の話のように、情報を出して伝えるのはすごく大変で、その中の一番大事な１つが、プライベートでやっているギャラリーがどんなことをやっているかとか、今、国立市で今日何があるということを、アートの芸術関係でフェイスブックでも、ツイッターでも見てすぐ分かるような。それは、国立市がこうしていますよとか、国立市のイベントはこうありますよとか、そういうような発想だったと思う。それがちょっと欠けている感じがして、私もコロナ禍ということではなくて、コロナ禍だからこそ、そういった情報を１か所で集めて、あそこの小さいギャラリーで、今日こんなことをやっているねとか、買物しながら、あそこに寄って、どこか見ていこうとか、そういうのが必要じゃないのかなと思う。

◇市が何かアート事業をするというのは限られていると思う。市ができるものの強みのところをやればよく、細かいのをいっぱいやってもしようがないというのが、私の考え。それから、文化全体を活性化するためにはどうしたらいいかということで、１つ大事なことは、プライベートな人たちのやっていることも、市が情報としてどんどん取りにいって、それをみんなとシェアしていく。例えば小学校でこんなイベントがありましたよということは、参加しなくても、聞くだけでもうれしい。恐らく、ああ、こんなことを小学校でやっているんだとか、そういうようなことが出てくるのが大事かなと。それをどういうふうにしたらいいか、また皆さんと考えたい。

◇３点目は、先ほど沢辺さんがいろいろなところで、こういう事業がありますよと、つくばでのことを御紹介いただいた。私は、１つ、すごく面白い事業だなと思ったのは、ポンピドゥーセンターでやっている音楽のパフォーマンスで、コロナで言葉はしゃべらないが、いろいろな世界的な芸術家とかがオープンスペースでやっていて、バイオリニストとか、オペラシンガーとか、そういう人が椅子を持っていって、オープンのところで誰かお客さんをつかまえて座らせて、その人のために３メートル、５メートルほど離れて歌を歌ったり、短い曲をするというものがある。周りの人ももちろん聞いていてそれでまた終わったら、ほかのところに行く。それから、ピアノをいろいろなところに置いた事業はとてもよかった。あれは、各所にあったからよかったと思う。色々なところに、意外なところにピアノがあった。そうやって移動しながら、ソロの楽器が１人で椅子を持ってやって、あなたのために弾きますというのを、毎週１回やるとか。そういうような、ちょっと発想を変えたような事業を、例えば市が先導するなり何なりしてやっていって、箱ものの中でやらないようなことを、コロナの後も考えていったらいいと思う。

【事務局】

◇ＡＣＫＴについて、説明が足りないというところは、おっしゃるとおりで、こちらも、説明しながら進めていくべきだったと反省している。今回、イベントについてはまだできていないところで、こちらについては、また改めてそういった場を設ける中で説明したい。傀儡かという話もあったが、基本的には、そこの一般社団法人のほうにつながるような仕組みづくりを主体的に考え

ていただくという中で、それに対する支援は行政がしていくというのがスタンスで、まずはそこの育成を考えている。

【足羽委員】

◇アーツカウンシルの代わりとなるものとして見たらよいのか。

【事務局】

◇こちらは、アーツカウンシル東京が認証している中で、ＡＣＫＴが立ち上がったということになる。先ほど、お話の中で、例えば市内のギャラリーの情報などもというお話があったが、ＡＣＫＴには市内の文化芸術情報の収集･発信というところも､将来的には担ってほしいと思っている。市のほうでも、市内のギャラリーの情報は集めようと思えば集まってくるのかもしれないが、現状なかなか集められていないような状態で、ＡＣＫＴの中で、公共団体だけでなく、民間のギャラリーなどの情報も集めて、まとめて発信できるようなこと、これは将来的にやれればというところだが、そういったことも担っていくことを期待している。

◇先ほど、箱物の中ではなく、公共空間の中で何かというところ、イベントのところでお話があったり、この資料の中で、資料５－２の６ページ、国立駅舎の東西広場でヘブンアーティストを行ったということで書いているが、今もＪＲから取得予定の国立駅舎の東西の広場があり、ここでプレ事業的に大道芸だったり、音楽の演奏だったりというところをやったという経過がある。これは、今までの、例えば芸小ホールの事業とは違い、聞きに行かなくても、そこを通りかかった人が大道芸に触れたり、音楽に触れたりできる、先ほど、ジャズを子どもたちが聞けるようなという、今村委員から話があったが、ヘブンアーティストの中で、例えばジャズの演奏なども、国立駅の東西の広場でやれれば、聞きに行かなくても、そこを通りかかった親子連れなどがそれを耳にすることで､ジャズに興味を持つ子も､何人かに１人はいるのかなというふうに考えている。東西広場の活用計画というのは、我々の部署ではなく、国立駅周辺整備課のほうで現在検討している。ここが取得できることによって、ここでやっていく事業は、新しい風を吹かせられるのではないかと、生涯学習課でも感じている。

【池田議長】

◇足羽委員の言われたことに非常に共感している。そして、全体の経過等を見ると、五感の中では、視覚に訴える事業が非常に弱くなってきていると感じた。過去のビエンナーレで、今度は中島真理子さんという方の作品展を芸小ホールでやるというのはあるが。

◇北海道新聞の文化欄に見開きで福間先生の紹介がすごく大きく出ていて、先生は映画監督でもあるし、詩人でもあるが、そういう視覚の部分、絵画とか、文化の基礎的な部分だったものが、何か集客力が弱いせいか、そういう部分が削られてきて、イベント的なものが多くなっている。そういう傾向を、常に基本を見直していくようなことが、この文化芸術推進会議では必要ではないかと思う。

◇この国立市で収蔵している美術品もあるが、ほとんどが過去のもの、故人になった方のものである。その辺、もう少し現在形で、まだ評価が定まらないものでも展示するような事業はどうか。

◇先ほど、国立ギャラリーネットワークの話も出たが、そこだけに依存するのではなく、やはり、もう少し視野を広げて、この新しい団体、一般社団法人ＡＣＫＴ、これがアクト／アートセンタークニタチを、重要な柱にしていかないと、ただのイベントや何かの行事をして終わる可能性があるのではないかと思う。

◇御意見いろいろありがとうございました。適切な計画推進に反映するように、事務局にお願いしたい。それでは、本日の審議をこの程度にとどめ、最後に事務局から連絡事項をお願いしたい。

【事務局】

◇本日、いただいた様々な御意見を今後の計画の展開に反映させていく。今、点検評価という形で年１回お願いしている。計画の中では、５年ぐらいたったら、内容をどうしようかという議論をするとしており、まだそこまでの年数はたっていない中で、来年また２月頃に実施するような予定である。ただ、会議はそういった間隔ですが、その他、お気づきの点がございましたら、それは随時、事務局のほうにお伝えいただければ、適切な形で対応する。

◇委員の任期がまたここで２年目になる中で、４月末で任期終了という状況にあり、また更新という話が出るかと思うが、またそれは改めて個別に御相談したい。

【池田議長】

◇御多忙な議会に、誠にありがとうございました。本日予定しておりました議事は、以上で終了となる。また、委員から、その他の意見等はないか。

【福間委員】

◇足羽委員の言われたことを、自分もずっと思っていたことだったと、話を聞きながら思った。もしも、国立で起こっていることをいろいろなふうに、どこかで集めるのは、まず、例えばツイッターだってできないことはない。国立で検索して、国立で起こっていることを、全部この場所で拡散してしまえばよいが、今はリツイートは全くしないような状況である。ただ、それをやっても、実際には、それはただ情報を動かしているだけ、情報を集めているだけで、誰がそれを見たり、それから感想を言って、これが今、我々が進めようとしていることとつながってくるのかどうか考えるのは誰なのかというと、実はそこが抜けているんじゃないかと思う。この国立駅舎ツイッターにだけ、たまたま目に入ったから言うが、これも情報を発信していても、誰がその発信したものを見に行っているのかというと、あまりいないと思う。ただ、こういうことをやっていますよという、１，５００の情報を出している。これは、人が実際に行って、見て、そこで誰かと出会って、１人じゃなくてみたいなことがあって、その人が動く部分で、動いて、その後考える場がないと。それがアーツカウンシルに期待したことだったが、そこまで考えると並大抵ではできないなと。ただ情報を集めたりなんかしたりしても、それはそれだけのことで、そこに、今、足羽委員の話を聞いた後で、気分としてはかなり重いというか、実はやれていないことが多過ぎるなという気がした。

【湯本委員】

◇去年の報告も役所関係のやったことの実績だけだった。もともとこの条例をつくったり、計画をつくったときに私たちがいろいろ議論したのは、行政はできることは、もちろんやっていただいて、行政しかできないことをやっぱりやって、それ以外の、皆さん、民間の人とか、学校とか、いろんな団体があって、そういう方たちがうんと活動するように、それを行政がバックアップをしていくようなことが一番、期待されたことだったと思う。そういった活動の実際の団体が今までなかったから、しょうがなかったのかなと思うが、できれば、そっちの方向へ行くんだろうということを期待する。イメージとして、市民みんなが活動をするというのが基本であって、そこに行政がそれをサポートする、バックアップするというのが、基本計画と、それから条例の意図だと思いうので、そういうイメージを持って、市はやっていただきたい。

【足羽委員】

◇希望を、ＡＣＫＴにかけるのであれば、こちらが考えているようなことを、ここの人たちにしっかり伝わっているかどうかが重要で、過剰な期待はよくないかもしれないが、そこを確認したい。１年後に確認しても、もう遅い。育てるといっているが、ずっといろいろなものが育っても、ＡＣＫＴの２人の方、この方が辞められたりとか、どこかへ移住したりとか、そうなったら、また元に戻ってしまう。一緒にやっている人たちが、例えば、今ここにあるのはくにたち文化・スポーツ振興財団、国立市生涯学習課、アーツカウンシル東京、これは東京都でこういうことをするというふうに決まったことに、私たちはちょっとぶら下がるという形で、国立の独自なものをどういうふうに打ち出していけるのか、それを育てるのが市で、頑張ってくださいと言う以外なくなるという認識ではよくないので、私たちも話し合っていきたい。だから、もしできたら、この方たちにちゃんと議論してきたことが伝わるような、そこで全部任せるということでなく、どういう形がいいんだろうかと考えている。今、福間先生もおっしゃったような、本当に大変なところをどう部分的にも形にしていくのか、していけるのかということを、この人たちに伝えたい。

【事務局】

◇今回の議事録はＡＣＫＴに渡し、例えば状況によっては、１年後の話になってしまうが、出席してもらうということも考えていてもいいかもしれない。

【沢辺委員】

◇拝見していると、ＡＣＫＴに期待する役割みたいなものが、ネットワーク構築とか情報発信というところで、市役所の方は考えているのか、それとも、今までこの会議で議論してきたような文化のコア、どういうものをコアとして考えていくのか、そういうところも含めて、ＡＣＫＴの人材に担っていただくように考えているのか。ＡＣＫＴの方自身もどういうふうに認識されているのかなというのが気になった。

【事務局】

◇まず、このＡＣＫＴの立ち位置、役割の中で情報発信というのは柱の１つになっており、それはＡＣＫＴのほうが主体的に発信している。それから、計画の中の推進体制という位置づけについても、ＡＣＫＴにやっていただきたいと思っているが、確かに今まで計画をつくり上げてこられた委員の皆様の思いが、ＡＣＫＴのメンバーに伝わっているかどうかというところについては、確かに伝わっているとは言い切れないので、そこをつなぐ取組というのは、持ち帰りになりますけれども、考えさせていただきたい。

【沢辺委員】

◇今のお話だと、ＡＣＫＴに主体性を持って、考えてもらえる主体になっていただきたいというような考え方だったと思う。逆に、コアにするものをもっと違う体制で考えて、逆に社団法人のメンバーにそれを実動してもらうやり方もあると思って、どちらのスタンスで、私たちが考えればいいのかなという意味で伺った。基本は、ＡＣＫＴのメンバーが主体性を持って企画だったり、コアになるものを考えていく主体になっていくという理解でよいか。

【事務局】

◇いわゆる市内にある民間、公的な機関も含めて、そこをつないでいくパイプ役の真ん中にＡＣＫＴがいるというイメージで、ＡＣＫＴが全部何でもやるというわけではなく、周りの文化芸術団体とつながり合いながら、新しい活動をしていくというようなものである。

【沢辺委員】

◇そうであれば、なおさら、さっき足羽先生がおっしゃっていた、いわゆるどういう思いでやっているのかということと、理事のメンバーの方々と対話する機会というのがあったほうがいいのではないかと、より一層感じた。

【池田議長】

◇ほかに意見はないか。それでは、これをもって、第１５回文化芸術推進会議を終了する。

―― 了 ――